

超高齢社会、自宅でも過ごす

空が高く澄みきり秋を感じる頃となりましたがいかがお過ごしでしょうか？

コロナ禍でご自身の健康状態や生活を見直した方も多いきょうこの頃。ご存知の通り現在の日本は超高齢社会に向かっていきます。国は住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最期まで続ける

ことができるように支援する仕組みを築くことを指示しています。

もちろん私たちが暮らすこの地域も例外ではありません。誰もが住み慣れた地域で自分らしい生活を続けていきたいと願うもの。しかし年齢を重ねると少しずつ自分で生活することへの不安が生まれます。

そんな不安を取り除くために、行政や医療、介護サービスを利用し、安心して過ごしていただけるようにする取り組みが進んでいます。

私たち薬剤師もお薬を通じて自宅で療養されている方に関わります。訪

問看護師やケアマネジャー、介護士の方々と連携を取り、利用される方の身体の状態を把握します。そして主治医に報告、時には状態に適したお薬の提案をする役割も



担っています。

住み慣れた場所で過ごし心も体も穏やかであれば、お薬の量や種類が減ることもあるものです。

もし自宅で過ごすことへの不安がある場合は家族や周りの方としっかり

話し合ってください。行政や介護サービスの内容を知り、連携する医療職や介護職と相談することで、不安が軽減する場合も少なくありません。

今月号の特集(1、4、5面)で取り上げられている、松阪市の「もめんノート」もこの取り組みの一つです。ご自身の気持ちをしつかり考えられる内容になっておりますので一度手にしてみてくださいいかがですか？

皆さまが日々の憂いなく安心して過ごせますように。

(薬剤師 西 美香)



[82]

松阪地区薬剤師会